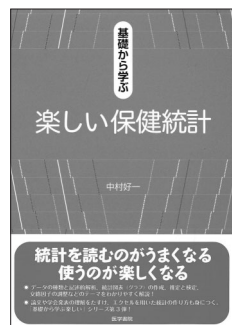


ユニークな著者による、
ユニークな体裁の、
大真面目で実用的な保健統計入門書
『基礎から学ぶ楽しい保健統計』

中村 好一 著

評者：上嶋 健治 京都大学病院臨床研究総合センター教授

●A5 頁192 2016年
本体2,800円+税 医学書院
ISBN 978-4-260-02549-2



敬愛する中村好一教授(自治医大公衆衛生学)が、『基礎から学ぶ楽しいシリーズ』の第3作目となる本書を発売されました。シリーズを通しての豊富な脚注(本書では総数140!)と、「統計デッドセクション」と呼称されるウィットに富んだコラム(総数15)というユニークな体裁はそのまま継承されています。

著者は第1章の「統計とは」で、「本書の表題は統計であって統計学ではない」と述べています(p.3)。まさに本書は統計学の教科書ではなく、秀逸な「統計の実用書」に他なりません。本文では、学問的に興味があるだけの部分にはわざと触れられておらず(それ故「楽しい」わけですが)、どうしても触れざるを得ない部分には、著者独自の見解を加えて脚注とコラムにたっぷりと記載されています。

以下、第2章は「データの種類と記述的解析」で、分析統計よりも一段下に見られがちな記述統計こそ重要とする著者のポリシーが十分に伝わってきます。第3章は「統計グラフの作成」について、得られた結果を印象深くかつ正確に表現する方法が情熱的に語られ、第4章の「統計学的推論」では、推定と検定、相関と回帰、オッズ比、標本サイズについて本書の1/3が割かれており、推定と検定の概念、相関と回帰の違いなどもわかりやすく解説されています。第5章は「交絡因子の調整」について、標準化と多変量解析をテーマに実例を元にユニークな表現で説明され、「筆者は多変量解析が嫌いである」(p.157)という、大きな声の独り言も

眩かれており、第6章は「一致性の観察」についてコンパクトにまとめられています。

同時に、各章・各項では、「ポイント」として四つの重要事項が挙げられており、これらもありきたりの内容ではなく、「データ入力には必ずミスが付きまとうと考えて対処する」(p.12)や「有効数字に気をつけよう」(p.39)など、読者に対してフレンドリーに minimum requirement が明示されています。本書はユニークな体裁ですが、保健統計の概念とその解説が必要十分に記載されていること、内容が極めて実務的であること、しかも応用範囲の広い内容がわずか180ページたらずに盛り込まれている点において、質の高い大真面目な実用書に仕上がっています。さらには、本書の学習効果を高めるために、医学書院のHPから67枚の演習用のエクセルシートをダウンロードできるようにも配慮されており(<http://www.igaku-shoin.co.jp/prd/hokentoukei>)、疫学研究や臨床試験に携わる方の「統計入門」の必携書としてふさわしいものでしょう。

なお、著者は本シリーズも3部作で終了と考えておられるようです。背景には来年の第21回国際疫学会会長をお務めになるなど、公私にわたる多忙な生活があるのでしょうか、評者よりも若く、まだまだ老け込む歳ではありません。一読者としても、本書で本シリーズを終了することなく、ぜひとも続編を期待したいと思っています。